

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 31 年 04 月 09 日	
所属部局・職	霊長類研究所・博士課程学生
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国、ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
行動
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 12 月 07 日 ~ 平成 31 年 03 月 29 日 (113 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
古市剛史教授、Center of Research for Ecology and Forestry in DR. Congo
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>(研究概要)：ボノボメスにおける移籍の至近的要因の解明</p> <p>集団間の移籍は、集団内外の血縁関係および地域個体群の構造に関わる生活史上の重大な側面である。メスが移籍するパターンは、集団で生活する哺乳類種では珍しいが、アフリカ大型類人猿に共通する特徴である。移籍するメスの生活史特性や戦略には研究の余地が多く残されており、生理・社会生態学的なアプローチが求められている。本調査では、ボノボメスの移籍の至近的要因を明らかにするため、コンゴ民主共和国のワンバ村に生息するボノボのコードメスを対象に縦断的な調査を実施した。行動観察と性ホルモン分析によって得られたデータから、移籍の時期前後の、ボノボメスの行動・生理的な変化を解析する。</p> <p>(アウトリーチ)</p> <p>私たちの研究活動を知ってもらうため、ワンバ村の地元の子供たちに向けて講演会を開いた。そこで、(1) ボノボ(生息地や系統など)について、(2) ワンバ調査の現状(人づけされた集団の数、遊動域)について、(3) 自身の研究テーマについて話をさせてもらった。また、ワンバの森の危機的状況(1974年からボノボ調査が始まったワンバ村だが、人口増加、銃器やマシエットの普及、都市部におけるブッシュミートの需要増加の煽りを受け、焼き畑や密猟による動植物への被害は近年増大している)を伝え、村人にとって大切な財産である森の資源を自身で守る重要性をうったえた。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

(ボノボの子どもたちの写真)



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@wildlife-science.org】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

本 PWS プログラムから 5 年間に渡ってフィールド調査の支援を頂きました。私の活動を支えてくださった先生、スタッフの方々に心よりお礼申し上げます。また、フィールドでの生活を支えてくださったワンバ村の皆さまにも深く感謝しております。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)